



和名：オオミノガ（ミノガ科） 学名： *Eumeta japonica*

本州、四国、九州などに生息する大型のミノムシの一種で、ミノの大きさは3～4cm程度です。広食性で、さまざまな種類の樹木の葉を食べます。雄は成虫になると翅のある普通の蛾の形になりますが、雌は翅のないイモムシ型の体の成虫になります。雄成虫は雌の入っているミノを探して飛び、雌と交尾します。

かつてはどこでもよく見かける普通のミノムシでしたが、1990年代後半に中国から寄生バエの一種オオミノガヤドリバエが侵入したことによって、西日本の各地でオオミノガの生息密度が劇的に減少しました。一部の地域では、絶滅危惧種として県別のレッドデータブックに掲載されるほど、少なくなりました。しかし、最近、オオミノガの姿を再び見かけるようになってきました。たくさんのオオミノガが一度に樹木の葉を食べてしまうような地域的な大発生も徐々に報告されています。

写真は、森林総合研究所四国支所構内のシャリンバイの生け垣で、2004年9月に大発生したオオミノガの幼虫です。

（佐藤重穂・酒井 敦）

（No.105 2004. 10. 15 掲載）